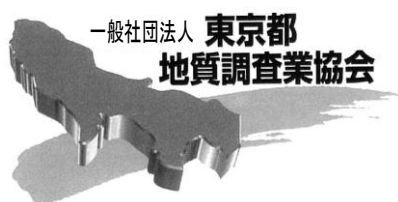


東地協ニュース 2013.12 第25号



がんばれ、東京都のジオドクター

理事 榎本 光孝

(株式会社 インターナショナル・サーボ・データー 会長)

はじめて北アルプスの白馬岳に登ったのは、中学2年生の夏の盛りでした。汗をかきながらひたすら歩いて2時間くらいでしょうか、ようやく大雪渓に到着しました。この白馬大雪渓は全長3.5km、標高差600mもある日本では最大規模の雪渓です。夏でも雪渓の上はまるでエアコンがついているように涼しく、夏の暑さを忘れるくらい心地よい風が吹き渡っていました。ふと気が付くと傍に雪解け水の細い流れが、太陽の光できらきら輝いていました。思わずしゃがみ込んで手にすくってみると、それは透明で光沢のある石英などからなる砂でした。よく見ていると周りの景色は様々な模様や形をした岩で成り立っており、永い年月を経てこれらの山を形成しているのだと、子供ごころに深く感じ入りました。

その後白馬には幾度か登りましたが、その地質を調べてみると「北アルプスは昔、マグマが地殻へ貫入し、その熱によって地殻の厚みが減少し、そこに応力が集中して挫折・隆起し、その褶曲作用により盛り上がり形成され、山脈が出来たのは第三紀で、隆起活動は250万年前から150万年前が活発だった」とか。

今は穏やかな山々も、以前は生物が生きることができない厳しい環境で、北アルプスの表情の多様性はこのような壮大な地球の生命活動を経て、創られたのだと改めて感動したものです。

私が本協会の理事を拝命いたしましたのは2007年でしたから、来春でもう7年目を迎えることになります。今回、この執筆依頼を受けて、過去の東地協ニュースをめぐって見ますと、第5号で山崎先生が次のように述べておられます。「天然とか自然という言葉は確かに優しく、美しいイメージを与えるが、実際の自然の動きの中では時として人間に災害と言う形で悲惨な影響を与えてきたことを忘れてはならない。国が目標としている安全で快適な社会とは稀に起きる異常な自然現象にも柔軟に対応して被害を最小限に留めることのできる社会であろう。そのためには、行政やマスコミを含めた多くの人が土地の成り立ちに関心を持ち、開発や防災などの様々な事業が土地の形成過程を十分に考慮した上で進められる世の中にする必要がある。そのような社会を築いていく上で、地質調査業の果たす役割は重大である」

会員が20数社まで減ってしまったとはいえ東京都のジオドクターとは、まさに皆様方のことでしょう。

東京都の土地の成り立ちを熟知する立場として、今こそ頑張っていたいただきたいと考えます。

● 会議報告等

○ 理 事 会

1. H25 年度 第 3 回

日時：平成 25 年 8 月 20 日（水）

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 東京都・災害協定締結について
- (3) 平成 26 年度東京都予算要望ヒアリングについて
- (4) 会員の退会
 - 報国エンジニアリング株式会社
 - 平成 25 年 11 月末現在
 - 正会員：22 社 賛助会員：8 社
- (5) 総務委員会関係
 - 1) 東地協ニュース 25 号について
- (6) 広報委員会関係
 - 1) 広報パンフレット改訂版
 - 2) 東京都都市づくり公社へ「技術講演会」開催要望
- (7) 技術委員会関係
 - 1) 第 3 回委員会報告（H25. 6. 12）
 - 2) 第 4 回委員会報告（H25. 7. 10）
- (8) 「日本地球惑星科学連合 2014 年大会」後援について
- (9) 転載許諾願い（技術ノート創刊号より）
 - 公益財団法人 地盤工学会関東支部
- (10) H25 年度防災展示について
 - 1) 東京臨海広域防災公園の展示
 - （8 月 31 日，9 月 1 日）
 - 2) 東京都・あきる野市総合防災訓練
 - （11 月 23 日）
- (11) 都内中小企業における事業実態等アンケート
- (12) 暑中広告掲載（公共事業展望特集）
- (13) 収支報告（平成 25 年度 5 月～7 月）
- (14) 協会への問合せについて
 - 1) 足立区綾瀬の地盤に関して
 - 2) 技術ノート 41 号の地盤図に関して
- (15) 平成 25 年第 1 回事務局長会議（全地連）

2. H25 年度 第 4 回

日時：平成 25 年 11 月 25 日（月）

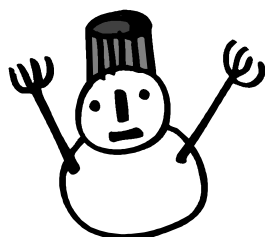
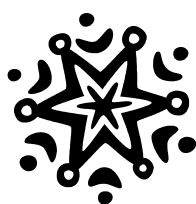
- (1) 前回議事録の確認
- (2) 平成 25 年度収支見込
- (3) 災害協定締結後の支援について
 - 支援連絡体制等
 - 大島町道・ボーリング調査の支援要請（打診）
- (4) 総務委員会関係
 - 1) 第 3 回委員会報告（H25. 11. 13）
 - 2) 東地協ニュース 25 号 進捗確認
 - 3) 東地協ニュース 26 号 企画案
 - 4) 会員増加の方策検討
- (5) 広報委員会関係
 - 1) 第 2 回委員会報告（H25. 11. 14）
 - 2) 広報 PR について
 - 3) 委員交代
 - （新）矢部 由香里氏（(株)ダイエーコンサルタンツ）
 - （前）塚崎 義洋氏（(株)ダイエーコンサルタンツ）
- (6) 技術委員会関係
 - 1) 第 6 回委員会報告（H25. 10. 9）
 - 2) 第 7 回委員会報告（H25. 11. 7）
 - 3) 最終委員会を平成 25 年 12 月 11 日（水）に開催
- (7) 転載許諾願い
 - 依頼先：(株)オブラ・パブリケーション月刊「理科教室」制作室
 - 雑誌名：料理教室（科学教育研究協議会編集/（株）日本標準 刊）2013 年 10 月号
 - 内容：技術ノート No.38 特集：多摩川 p2. 図 3、p16. 図 15・図 16・図 17
- (8) 平成 25 年度防災訓練（展示）について
 - 1) 東京臨海広域防災公園の展示（関東協会主体）
 - 2) 東京都・あきる野市総合防災訓練（東京協会主体）
 - 3) 東京都・防災展示（平成 26 年 3 月 9 日～11 日）
- (9) 収支報告（平成 25 年度 9 月～10 月）
- (10) 基調講演「2020 オリンピック・パラリンピックが

もたらす新たなスポーツ大計」(顧問・鈴木隆道)(12月10日)

(11) 積算資料改訂歩掛版の説明会(12月10日)

(12) 平成25年第3回代表理事・連絡会議(全地連)

(10月24日)



「防災協定(東京都)報告」

平成25年6月25日、かねてより東京都と進めてまいりました「災害時における設計、測量、地質調査等の応急対策業務に関する協定」の締結式が行われました。当日は東京都からは村尾技監兼建設局長、笹井総務局長、多羅尾港湾局長が、事業者側からは建設コンサルタツ協会関東支部、東京都測量設計業協会、東京都地質調査業協会の3協会の代表者が立ち会い、連名にて署名捺印し締結書を作成いたしました。

今回の協定のポイントは、被災直後の道路・港湾などの施設などの被災状況を的確に把握し、効率的かつ効果的な応急復旧の実現を図るものです。また都知事が概括的な内容を定める基本協定を、施設を管理する各局が協定の対象施設の範囲や実施内容をそれぞれ定めるものとしています。

この協定によって、災害時の迅速な支援活動がなされ、被害の拡大防止・被災施設の早期復旧等の応急対策により、被害を最小化することが期待されています。今後に対し協会は、発生時の課題・問題点に対し3協会を含めた協議・検討に加え、支援要請により支援協力を得る上部団体(関東地質業協会・全国地質調査業協会連合会)との調整も並行して行ってまいります。

副会長 網代 稔



☆ トピックス (協会行事紹介)

◎ 土壌・地下水環境調査技術講習会 環境部会

日 時：平成 25 年 6 月 28 日（金）

開催場所：多摩平交流センター（多摩平の森ふれあい館）

平成 25 年 6 月 28 日に多摩平交流センター・黒川清流公園（東京都日野市）において、『土壌・地下水環境調査技術講習会』を開催しました。

本講習会では、室内講習と湧水地点等の巡検を兼ねた実地講習を行いました。

室内講習では、①地質調査業における地盤環境技術について、②現場簡易分析手法（水質・土壌・ガス）の紹介についてそれぞれ講習を行いました。

実地講習では、黒川清流公園において、①関東ローム露頭の見学、②湧水地点の観察を行い、③湧出した水の流量（三角ノッチ法、浮き流し法）及び水質（pH、電気伝導度）を測定する実習を行いました。

本講習は、入門者の方にも知識を深めて頂けるよう、環境部会の技術委員を講師として、地盤環境調査の位置付け、関連する法規制・基準、調査・現場分析の手法等について判り易く説明を行いました。

環境調査の基本的な技術の一つである現場簡易分析について、受講者の皆様には各種分析機器の実物を見て、実際に操作して頂きました。

環境アセスメントでは、都市開発等の事業に伴う環境の保全を目的として、その影響を適切に調査・予測・評価することが求められており、特に地盤を構成する土壌・地下水環境の調査・評価においてはわれわれ地質調査業者が果たす役割は大きいものと考えます。受講された皆

様には本講習で得た知識を今後の業務の取り組みに役立てて頂ければ幸いです。

黒川清流公園並びに園内の緑地保全区域を管理する東京都及び日野市には、本講習会の開催にご理解・ご協力を賜りました。また、室内講習における現場簡易分析機器の展示・解説には、基礎地盤コンサルタンツ株式会社殿のご協力を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。

なお、本講習会では、受講して頂いた皆様（15 名）に CPD 認証 3.0 ポイントを付与しました。



現場簡易分析機器の講習



湧水の水質測定（pH、電気伝導度）

（技術副委員長 樋口 靖）

◎ 東京都 2013 地質見学会

日 時：平成 25 年 11 月 13 日（水）

開催場所：立川断層（東京都～埼玉県）

11 月 13 日（水）に首都大学東京の山崎晴雄教授を講師にお招きして、立川断層巡検を開催しました。国立市矢川付近からスタートして、立川市砂川付近、瑞穂町北西、青梅市藤橋、飯能市申淵付近、名栗断層に至るまでの巡検コースでした。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を契機に、地盤の応力状態が変化して地震の発生する確率が高まっていると言われています。中でも、昨今様々な意味で世間の注目を集めている立川断層をテーマに、今回の巡検では、山崎先生に大変解り易い解説をしていただきました。個人では見学しても見落とすか、気付かないであろう僅かな段差や地形の変化等について、実際のフィールドで、詳細に解り易く説明していただいたおかげで、参加者は大いに勉強になったことと思います。

巡検中、山崎先生がおしゃっていた「立川断層が動いたとしてもマスコミが煽っているように地表面が大きくずれて、地上の構造物が破壊されることは考え難い。地震災害の要因ではなく、素因を如何に低減するかが大切である」という教訓は、今後懸念されている大震災に備える心構えとして非常に参考になりました。

今後も技術研鑽の一環として、様々な催しを企画しますので、奮って参加していただければ幸いです。



巡検風景（国立市矢川付近）



巡検風景（立川市砂川付近）

（技術委員 照屋秀治）

『東京湾岸地域の地盤環境研修会』の雑感

日 時：平成 25 年 11 月 20 日（水）

開催場所：中防合同庁舎 豊洲地区 東京港（施設見学）
夢の島地区 若洲地区

一社）東京都地質調査業協会 技術委員会（環境部会）主催の東京湾岸地域の地盤環境研修会に参加しました。2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、今後の開発が計画される東京湾岸地域について、地形や地質、これまでの土地利用の歴史、土壌汚染の現状・対策等を説明していただきました。

1. 中防合同庁舎、中央防波堤・新海面処分場

東京都内で排出されるごみの処分方法、状況について東京都環境公社の方に説明していただきました。不燃ごみの分別や破碎状況や、中央防波堤処分場での埋立て状況を現地見学しました。埋立て処分場の延命化問題等は聞いていましたが、処分場から発生する浸出水の処分に多くのプロセスを必要とすること、多額の費用が発生する等を教えていただきました。

2. 豊洲地区

築地市場の移転先である、豊洲新市場予定地の土壌汚染対策工事について敷地周辺から技術委員の方に説明

していただきました。掘削や仮設土壌処理プラント用のテントが林立していて、汚染対策の実状を見ることができました。

3. 視察船新東京丸による東京港施設見学

竹芝小型船ターミナルにある視察船新東京丸に乗船し、東京港の役割について東京都港湾局の職員の方に説明していただきました。芝浦ふ頭が耐震強化岸壁として整備され、災害時の緊急物資拠点としてふ頭の役割が重要であることを教えていただきました。また、午前中に陸から見ていた中央防波堤外側と新海面処分場の埋立地を海上から見学しました。

4. 夢の島地区

2020年東京オリンピック・パラリンピックで馬術やアーチェリー会場として予定されている夢の島地区を車中から見学しました。この場所が戦前は飛行場建設予定地であったことは少し驚きました。現地は埋立てに伴う社会問題や事故があった場所とは思えないほど整備されており、ごみ埋立て地の跡地利用の実態を知ることができました。

5. 若洲地区

若洲地区は高度経済成長の大量生産・廃棄の時代に埋め立てた処分場で、当時のごみ処分が緊急かつ重大な環境問題であることを説明していただきました。その後、東京ゲートブリッジを見学しました。夕日が照らす中央防波堤を橋上から見ながら、2020年までには夢の島のように緑化し整備されるのであろうと想像していました。

普段なかなか立ち入れないさまざまな場所を見学できました。東京湾岸が都市社会の抱える環境問題の歴史そのものであり、今後も続いていくことがよくわかりま

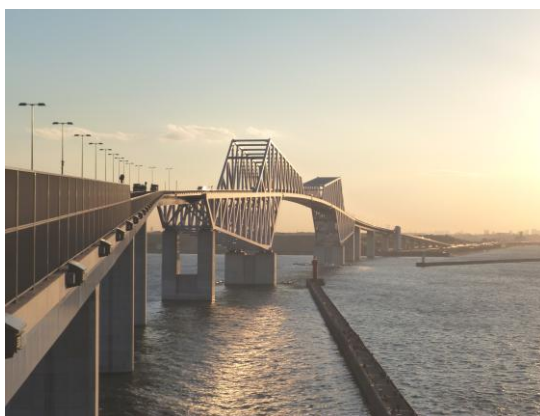
した。今回は、東地協の技術委員会環境部会の皆様のおかげで貴重な知見を得ることができました。ありがとうございました。



中央防波堤外側埋立地より、新海面処分場を臨む



視察船新東京丸



東京ゲートブリッジ

(株式会社地盤試験所 亀井 秀一 氏)

◎ 東京都あきる野市合同総合防災訓練

日 時：平成 25 年 11 月 23 日（土）

開催場所：都立秋留台公園

当協会は一昨年、昨年に続く 3 回目の参加となり、小職他 5 名の技術委員で対応した。訓練規模としては多摩直下において M7.3 の地震が発生した想定で、3 時間の短時間ではあるものの延べ 5,000 人の動員による大きなものである。協会は、一般来場者等を対象に、『防災に関する展示・体験を行い意識向上を図ること』を目的とし、例年同様に地震災害、斜面災害のパネル展示、また土地条件図を利用した地盤検索を行った。来場者の多くはあきる野市在住の市民であり、協会ブースへ立ち寄る方々の注目は、山沿いの斜面災害、立川断層についてであった。ある町内会の防災担当者から、「防災マップに黄色く斜面災害の地域が描かれている。山沿いでもないのになぜか？」という質問が寄せられた。土地条件図では段丘崖のある地区であった。山がないと斜面災害がないと連想したのだろうか。立川断層についてもそうであるが、できる限り正確な情報を住民の皆様に伝えなければいけないことを実感した。今後、防災関連行事としては来年 3 月に秋葉原において東京都防災展が予定されている。多忙な時期ではあるが『3.11』を忘れないためにも多くの方々に防災については是非考えていただきたい。



（協会の展示ブース）



（地盤検索での説明を熱心に聞く来場者）

（技術副委員長 太田智之）



— 関連書籍のご案内 —

全国標準積算資料（土質調査、地質調査）

平成 25 年度改訂歩掛版

発行（社）全国地質調査業協会連合会

昭和 40 年の発行以来、全国多数の発注機関で採用されている全国標準積算資料が 5 年ぶりに大改訂されました。（平成 25 年 9 月発行）

地質調査業務 積算図書のご案内

全国標準積算資料

（土質調査・地質調査）

平成 25 年度改訂歩掛版

平成 25 年 9 月 発行

主な改訂箇所

項目	主な変更内容
第Ⅰ編 総則	〔見直し〕コンサルティング業務における諸経費体系の変更 【新 規】コンサルティング業務における旧諸経費体系への対応（今回の新諸経費体系に対応した歩掛を、旧諸経費体系で使用する際の歩掛補正式を新設） 〔見直し〕損料率の全面的変更（ボーリングマシン、各種試験機器） 〔見直し〕コンサルティング業務における諸経費体系の変更 ※経費項目と経費率の変更 【新 規】コンサルティング業務における特に高度な技術を要する場合の経費率を新設 【新 規】成果品作成費（電子納品、紙媒体の印刷製本）の算出式の追加
第Ⅱ編 コンサルティング業務	〔見直し〕本章歩掛の全面的変更 ※新しい諸経費体系への対応 〔見直し〕説明文書や注釈等の一部変更 〔見直し〕章立ての一部変更 〔見直し〕模擬地震波作成の歩掛構成を全面的に変更 【新 規】道路防災点検（カルテ点検）の歩掛新設
第Ⅲ編 調査ボーリング	【新 規】簡易足場組立解体の歩掛新設 ※道路上などの簡易な足場 【新 規】土質ボーリングにおけるオールコアリングの歩掛新設（φ 66.86mm） 〔見直し〕掘削費深度割増の適用深度の変更 〔見直し〕掘削費の危険による修正の適用深度の変更
項目	主な変更内容
第Ⅳ編 探査・計測・試験	〔見直し〕各探査におけるコンサルティング業務部分の歩掛を全面的変更 〔見直し〕調査業務の歩掛を一部変更 〔見直し〕歩掛の材料費につき、物理探査関係は全面的変更 他の項目は部分的に変更 〔見直し〕能率向上補正に関する説明文書の一部変更 ※補正值の下限・上限に関する説明など 【新 規】水源への影響判定の歩掛新設 【新 規】かんがい用水水路系統調査の歩掛新設 【新 規】水質分析用試料の採水の歩掛新設 〔見直し〕標準貫入試験の改正 JIS 規格への対応 〔見直し〕説明文書や注釈等の一部変更 【新 規】伸縮計設置歩掛の設置延長補正の新設 【新 規】土石流監視システムの配置計画・設置の歩掛新設
第Ⅴ編 土壌・地下水 汚染調査	〔見直し〕説明文書や注釈等の全面的変更 ※簡略化 〔見直し〕各調査におけるコンサルティング業務部分の歩掛を全面的変更
第Ⅵ編 海上地質調査	〔見直し〕歩掛の一部変更 〔見直し〕説明文書や注釈等の一部変更
第Ⅶ編 共通仮設	〔見直し〕歩掛の一部変更 〔見直し〕説明文書や注釈等の一部変更

5 年ぶりの大改訂

国交省の新しいコンサルティング経費に対応

“赤本”の愛称で親しまれる
地質調査業務積算担当者の必携図書

全国標準積算資料

土質調査・地質調査

平成 25 年度改訂歩掛版

B5 判 431 頁 527 の歩掛表を掲載

発行（社）全国地質調査業協会連合会

定価 7,350 円（税込）

♪ 賛助会員 PR コーナー

<第5回> 株式会社 縄定

水 上 足 場 架 設 技 術 と 実 績 で 五 十 年 ボーリング櫓は当社にお任せください



営業品目 ; 鋼製櫓、スパッド台船、単管足場

船 舶 ; クレーン台船・曳船・交通船・作業船・警戒船・ユニック台船

株 式 会 社 縄 定

本 社 東京都港区浜松町2丁目13番11号

〒105-0013 TEL 03 (3436) 2746

FAX 03 (3437) 5989

港 南 営 業 所 東京都港区港南5丁目1番15号

〒108-0075 TEL 03 (3471) 8837

FAX 03 (3471) 8865

■ 会員(正会員・賛助会員)動静

(1) 会員の本社移転のご案内

応用地質株式会社 (平成 25 年 10 月)

〒101-8486 東京都千代田区神田美土代町 7 番地
〈東京支店〉 電話 03-5577-4612 FAX 03-5577-4616

住所、代表者、会社名等の変更がございましたら、
お手数ですが協会事務局までご連絡をお願い致します。
(協会事務局 TEL 03-3252-2963)

▲ 行事日程

日 程	行事名・内容等
12 月 10 日 (火)	(関東) 積算資料改訂歩掛版等の説明会
12 月 18 日 (水)	(関東) 関東地方整備局との意見交換会
1 月 8 日 (水)	(関東・全地連) 新年賀詞交歓会
3 月 9 日 (火)	(東京・関東) 東京都防災展
4 月中旬	(東京) H26 年度第 1 回ボートリング講習会
5 月中旬	(東京) 第 30 回通常総会
5 月中旬	(関東) 第 61 回通常総会
6 月中旬	(関東) 地質調査技士講習会
6 月下旬	(東京) 分析機関見学会

※ (東京) 一般社団法人東京都地質調査業協会
(関東) 関東地質調査業協会
(全地連) 一般社団法人 全国地質調査業協会連合会

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

・ 編集後記 ・

つい先日まで暑い暑いと思っていたら、早くもお歳暮
の案内や年賀状の話題が出始め、季節の変化についてい
くのがやっとです。それにしても、昨今の気象変動は地
球規模で頻繁に発生している模様で、もはや異常気象と
は言えないものとなりつつあります。2020 年のオリンピ
ック・パラリンピックが東京開催に決定しました。東京
での夏季五輪は、56 年ぶりとのことで、誰しもが喜ばし
いことと思います。ただ、開催予定が 7 月末から 9 月上
旬とのこと。熱中症対策にも万全を期待します。

(A. T)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【お店紹介】

今回は都内のおいしいラーメン屋さん①です。
ラーメン屋シリーズの初回は、協会すぐそば、神田駅西
口商店街のお店です。
超濃厚豚骨スープですが、見た目よりあっさり味で食べ
やすいです。
投稿数が最も多いラーメンランキングサイトでは、千代
田区第 6 位の人気店なので、昼食時は結構な行列がで
きます。お急ぎの方は開店直後から 11 時または 14 時以降
がお勧めです。
協会にお越しの際には是非ご賞味あれ。



店 名 神田ラーメンわいず
住 所 千代田区内神田 3-9-6 (西口商店街)
神田駅西口徒歩 1 分
電 話 03-5256-0313
営業時間 平日 10 時 30 分～24 時(土曜祝日 21 時まで、
日曜定休)

東地協ニュース 2013.12 第 25 号

発行・編集 一般社団法人東京都地質調査業協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-6-8 (内神田クレストビル)

TEL 03-3252-2963 FAX 03-3252-2971

<http://www.tokyo-geo.or.jp/> E-Mail info@tokyo-geo.or.jp